

マヌエル・デ・ファリャ

歌劇《はかなき人生》より●LA VIDA BREVE

交響的印象《スペインの庭の夜》●NOCHES EN LOS JARDINES
ピアノ独奏□木村香子 DE ESPAÑA

恋は魔術師●EL AMOR BRUJO
独唱□春日成子(メゾソプラノ)

舞踊音楽《三角帽子》第2組曲●EL SOMBRERO DE TRES PICOS

指揮
芥川 也寸志

1988
4月3日(日)東京文化会館2:00p.m.

アマチュアオーケストラ
新交響楽団第119回演奏会

S2000円 A1500円 B(自由席)1000円●お問合せ・お申込み:コンサートサービス☎03(263)3858
●お申込み:チケットぴあ ☎03(237)9990 チケットセゾン☎03(980)9990 ●主催:新交響楽団

一度、マヌエル・デ・ファリャを聴いてみませんか

新響は毎年4月に「日本の交響作品展」や「中国作品展」と銘打った「作品展」シリーズを行ってきましたが、今年は少し趣向を変えて、ファリャの作品ばかりを集めて演奏会を開きます。

ファリャは、1876年、スペインのカディスに生まれました。

ピアノを勉強した後、アルベニスやグラナドスを育てた作曲家、ペドレルのもとで学びますが、ファリャの書いた音楽は、この頃から徹底して民族的な伝統と美感の上に立ったものであったようです。1905年に歌劇「はかなき人生」でマドリッド音楽院の懸賞募集に一等賞を得て、彼は作曲家としての第一歩を踏み出します。

1907年には、ピアニストとしてパリへ行き、7日間の滞在のつもりが、7年にわたって在留してしまいます。その間、デュカス、ドビュッシー、ラヴェルらと交遊して、彼らの洗練された和声感覚と管弦楽法を会得します。

新世紀の息吹が溢れようとしている時代でした。1910年代の前半には、ストラヴィンスキーがロシアの民謡や民話をもとに、大地に根ざした三つの作品、「火の鳥」「ペトルーシュカ」「春の祭典」をパリで発表して、20世紀における現代音楽の扉を開くことになります。

1914年、第一次世界大戦の戦乱がひろがって、ファリャは帰国しますが、1910年代の後半に、それまでフランスの印象主義の作曲家達が音にして聴かせたスペインとは明らかに異なる、郷土の色彩鮮やかな管弦楽作品、「スペインの庭の夜」「恋は魔術師」「三角帽子」をたて続けに書き上げました。

同じ頃、ファリャや初期のストラヴィンスキーと同じように、故郷の舞踏や民謡などの音楽的素材と風土を出発点とした作曲家がいました。ハンガリーのゾルタン・コダーイとベーラ・バルトーク、チェコのレオシュ・ヤナーチェクです。

20世紀の初頭、ロシア、イベリア半島、東欧と、ヨーロッパの中心部を囲むように活動を始めたこれらの作曲家達はいずれも、今世紀の音楽のなかで、重要で革新的な役割を担った人々なのですが、この中でファリャの作品は、スペインの民族的なリズムと音楽を表現するのが難しいためか、日本のオーケストラ公演では、「三角帽子」を除き、めったに取り上げられることがありません。もっとも、「恋は魔術師」のなかの「火祭りの踊り」は、映画「オーケストラの少女」でルービンシュタインが手を振り上げながら弾いた名演奏などで、誰もが一度は耳にしたことのある曲かもしれませんが。

三代続いた江戸っ子である音楽監督芥川也寸志と、このところフランス音楽づいている新響が、この20世紀のスペイン音楽にどう挑戦するか、案外今年の4月の数あるコンサートの中でも一番の面白さと楽しさかもしれませんよ。

あなたも一度、マヌエル・デ・ファリャを聴いてみませんか。

団員募集

新交響楽団では、より良い演奏活動を行なってゆくために、あなたの力を待っています。

入団希望者には簡単なオーディションがあります。

練習時間：毎週土曜日 6時～9時

団　費：入団費 3,000円／毎月 3,000円(学生 2,500円)

連絡先：新響事務所　03-269-6513（留守番電話あり）



STEINWAY & SONS®

伝統と手作りが生んだ
世界の逸品
スタインウェイ

日本総代理店　株式会社 松尾楽器商会

東京都港区芝大門1丁目9番1号　TEL.436-4331(代)
国電：浜松町駅下車7分　地下鉄：大門駅(都営浅草線)　御成門駅(都営三田線)下車4分

スタインウェイ サロン 神戸
〒651 神戸市中央区磯辺通2丁目2-10 新南泰ビル1F
☎078-221-4071(代)　FAX.078-221-7667

■美しいカタログを用意しております。機種名をご記入の上、お申し込みください。■お求めやすい長期ローンのお取り扱いをしております。ご利用ください。